

2026

3.11 (水)

12:10
12:50

12:10-12:15

◆発表者紹介

12:15-12:40

◆プレゼン

12:40-12:50

◆質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_NSGeTakUTkiC6lj2AVB84A

【技術支援】九州大学 Q-AOS

音と聴覚の研究



Key Words

音

知覚

精神物理学

音声

記憶

レメイン ジェラード バスチアン 教授

九州大学 芸術工学研究院 音響設計部門 教授 芸術工学府 芸術工学専攻

ジェラード・レメインは、九州大学大学院芸術工学研究院音響設計部門の教授です。オランダ出身で、ライデン大学にて知覚心理学の学士号と修士号を取得しました。1993年に九州芸術工科大学大学院で聴覚心理学の修士研究を行うため初来日し、2003年に同大学院で博士号を取得しました。その後10年間で、レメイン教授は5つの博士研究員職を歴任し、九州大学、金沢大学、金沢工業大学において卓越研究センター(COE)研究員や日本学術振興会(JSPS)特別研究員などを務めました。この期間を通じて、心理物理学的手法と神経科学的手法(特に脳波(EEG)と機能的近赤外分光法(fNIRS))を用いた視覚・聴覚知覚の研究に従事しました。2010年に福岡に戻り、九州大学国際教育センター准教授に着任、2014年に音響設計部門に異動しました。2025年には、かつての指導教員の後任として聴覚心理学の教授に就任しました。現在、大橋キャンパスの知覚心理学研究室を主宰し、聴覚および視聴覚に関する研究を統括しています。主な研究テーマは、限られた時間枠内における音情報の要約統計(アンサンブル)知覚を含む、音知覚の時間的側面です。

日常生活における音は通常、警告やコミュニケーションの機能を持ち、聴覚システムは私たちと周囲の世界をつなぐ重要な役割を果たしています。聴覚科学における中心的な課題は、耳に入る複雑な音波の混合が、脳内でどのように意味のある「聴覚的対象」へと変換されるかを理解することです。ここでは、聴覚分野における二つの研究を紹介します。第一の研究は、基本的な聴覚特徴の一つである音の高さの要約統計的知覚を調査し、音列から中核的な情報を迅速に抽出し、それを聴覚的ワーキングメモリに保持する仕組みを解明します。第二の研究は、65歳以上の聴取者における音声知覚に関するものです。「モザイク音声」を用いて、高齢者が劣化した音声信号からどの程度意味を抽出できるかを評価します。高齢化社会において、こうした研究は補聴技術の開発を支援し、私たちの生活の質全体を高める可能性があります。